

研究協力をお願い

岐阜県総合医療センターでは、下記の臨床研究を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。なお、この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は、下記のお問い合わせ先までお願いいたします。

最後に、研究への参加をお断りになった場合でも、将来にわたって当センターにおける診療・治療において不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

研究名：バンコマイシン塩酸塩点滴静注用の長期投与症例における血中濃度-時間曲線下面積の変動要因の探索

1. 研究対象者および研究対象期間

当院で2023年1月～2026年3月に血液培養が陽性となりバンコマイシン塩酸塩点滴静注(VCM)を7日以上投与され血中濃度を測定された18歳以上の患者様

2. 研究目的・方法

VCMは、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌や腸球菌などによる感染症に対して使用される抗菌薬であり、「抗菌薬TDM臨床実践ガイドライン2022」においては、有効性、安全性の面から血中濃度-時間曲線下面積(AUC)をモニタリングの指標とすることが推奨されています。当院においても、ガイドラインに基づきAUC400～600 $\mu\text{g}\cdot\text{h}/\text{mL}$ を目標に投与設計を行っています。しかし、VCMの投与が長期化するにつれ、予測されたAUCから逸脱する場合や、AUCの上昇と併せて腎障害を認める場合があります。利尿薬やタゾバクタム/ピペラシリンの併用、eGFR30 $\text{mL}/\text{min}/1.73\text{m}^2$ 未満がVCMによる急性腎障害のリスク因子であることは明らかで、VCMの投与期間の延長は腎障害のリスク要因との報告はあるものの、長期投与症例においてAUCが変動する要因については明らかになっていません。長期投与中においてもこれらの要因を考慮した投与設計を行うことができれば、安全かつ有効な投与継続が可能となると考えています。

本研究では、VCM投与中のAUCを変動させる要因について検討することを目的とします。調査方法は電子カルテを用いて、後方視的に下記に示す内容を調査します。なお、本研究は金城学院大学と共同で行います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、身長、体重、BMI、血液検査所見、VCM 投与開始の契機となった診断名、入院契機となった診断名、併存疾患、細菌培養情報、VCM 投与量、投与日数、血中濃度、中心静脈ルート留置の有無、ICU 入室の有無、滞在日数、入院日数、併用薬、点滴総量、手術歴、輸血歴、転帰

4. 個人情報の取り扱い

個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

5. お問い合わせ先

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター

“所属” 薬剤部

“氏名” 前田 里奈

電話番号：058 - 246 - 1111

(内線：8661)